

『十代の望まない妊娠防止対策に関する研究』

Ⅱ. わが国十代女性の性、妊娠、避妊、出産に関する現状調査

北村 邦夫	(社) 日本家族計画協会クリニック (東京都)
片桐 清一	青森労災病院 (青森県)
真井 康博	慶愛病院 (北海道)
長池 文康	長池産婦人科医院 (宮城県)
家坂 清子	いえさか産婦人科医院 (群馬県)
岩倉 弘毅	岩倉病院 (東京都)
高橋健太郎	島根医科大学 (島根県)
平嶋 仁博	渡辺産婦人科医師 (福岡県)
柿木 成也	柿木病院 (鹿児島県)
町浦美智子	カルフォルニア大学サンフランシスコ校 看護学部/助産婦 (サンフランシスコ)

はじめに

日本産科婦人科学会では、1978年、1983年、1988年の3回にわたって、青少年の性意識や性行動の実態をより正確に把握しようと、19歳以下で妊娠した女子を対象とした、社会医学的な調査を実施してきた。これらの結果を通して、性交経験の若年化が進行している事実をつかんできたが、第3回目の調査から、すでに7年が経過しているこ

ともあり、最新のデータを収集するために、本研究班独自で、同様の調査を行うことになった。

今回は、全国的な規模ではなく、研究班への協力を要請した全国8地域(北海道、青森、宮城、群馬、東京、島根、福岡、鹿児島)、10を越える施設での調査となっている。

1. 調査対象および調査方法

(1) 調査対象

従来の日本産科婦人科学会調査と同様、20歳未満、すなわち19歳までに妊娠状態を終了した者を対象とした。今回はじめて、コントロール群として21歳を選び、同じ調査用紙を使って、調査を行った。

日本では、10代妊娠が、特に取り沙汰されているが、20歳以上であっても、大学などに在学中のために、親やからの経済的な援助なしには生活ができない、「親のすねかじり状態」の若者がいる。その種の若者の妊娠も、10代妊娠と同様に問題がある、という仮説に基づき、コントロール群として調査対象とした。ただし、調査負担を軽減するために、有職者と大学生とが混在する可能性の高い、21歳の妊娠例のみを特定して、調査を行っている。

(2) 調査票の作成と調査方法

分担研究者と研究協力者によって組織した調査委員会で作成した調査表(別途資料)を各施設に郵送し、1994年12月から、1995年12月までの1年間、調査を実施した。

調査は、産科外来に受診した20歳未満と、21歳の妊娠例全例について、待合時間等を利用して、自ら記入し、提出して貰うという方式をとった。その後、担当の看護婦、助産婦、医師等が、最終チェックをした上で、補足記入し提出してもらった。

初診時における患者自らの記入に加えて、医師、助産婦、看護婦記入欄を設けた。妊娠の結末を、中絶については手術終了までを、分娩の場合には、新生児の情報についても、可能な限り詳細に調査した。

2. 調査成績と考察

1996年2月上旬までに回収された調査票は824件であった。それらの症例を、19歳以下と、21歳の二つのグループについて、様々な角度からの比較検討を行った。

(1) 年齢分布

本調査研究の対象者の年齢分布は、14歳5例、15歳3例、16歳37例、17歳104例、18歳120例、19歳272例であった。19歳以下の症例の合計は541例であった。この年齢分布は、日産婦の過去3回の調査結果と同様のパターンを示し、18歳と19歳で、10代妊娠全体の73%を占めていた。しかし、今回の調査集計結果では、16歳以下の症例は、全体の8.3%と、1988年調査の11.0%に比べ、やや減少傾向を認めた。

コントロール群として調査した21歳の症例は283例回収された。

(2) 妊娠の結末

妊娠の結末を示した。19歳以下の症例に関しては、541例中、妊娠の結末がわかっているものは497例で、結末不明が44例であった。497例中分娩例（分娩予定も含む）は128例（25.8%）であった。自然流産12例、人工妊娠中絶例は353例（71.0%）であった。

なお、分娩例の最低年齢は14歳（帝王切開）であった。また、珍しい症例として、14歳の胎状奇胎の症例があった。

妊娠の結果が不明の44例に関しては、追加調査を行っている。

（3）婚姻状況

青森県内の十代妊娠の調査（品川・片桐）によると、「十代妊娠は、その症例の婚姻状況によって、妊娠の結末に大きな影響を受ける」と報告されている。

今後の、社会的背景別の調査集計のために、症例の婚姻状況について整理した。不明例2例を除く、19歳以下の妊娠例539例についての調査結果である。

私共は、妊娠に気がついてから、急いで、駆け込むがごとく入籍する結婚形態を駆け込み婚と称している。その駆け込み婚の概念を取り入れ、既婚、駆け込み婚、未婚の3群に分けた。それによると、既婚12例（2.2%）、駆け込み婚、103例（19.1%）、未婚424例（78.7%）であった。

コントロール群の21歳群は、既婚49例（17.4%）、駆け込み婚48例（17.

0%）、未婚185例（65.6%）であった。

今回の集計は、年齢別の集計が主体であるが、今後は、既婚、駆け込み婚、未婚と、婚姻形態別の集計も行う予定である。

（4）身体的発育：身長

19歳以下の症例の身長は、155—159cm群が、198例（36.7%）と、最も多い率であった。次に多い群が160—164cm群154例（28.5%）であった。従来の調査でも、155—159cm群が、最も高率であったという。十代妊娠例の身長は、従来の調査時と、余り大きな変化を認めてはいないようであった。コントロール群の21歳群でも、155—159cm群が、37.8%と、最も高頻度であった。

（5）身体的発育：体重

19歳以下の症例の体重は、45—49Kg群が172例（32.3%）と、最も多かった。ただ、つぎの50—54Kg群も、167例（31.4%）と、ほぼ同数の症例であった。従来の調査時よりも、若干大きく（重く）なっていた。

3. 本人に関する調査

（1）本人の学歴

今回の調査票には、本人の学歴の選択肢に、「高校中退」を加えた。19歳以下の症例のうち、中学生が6例（1.1%）、高校生が113例（21.0%）、中卒が90例（16.7%）であった。新しく設けた選択肢「高校中退」にマルを付けた者が85例（15.8%）もあった。コントロール群の21歳の症例についても、高校中退が40例（14.7%）もあった。

10代妊娠の症例の中に、高校中退者が、15%前後もいたことは、非常な驚きであり、予想を大幅に上回る数値であった。

19歳以下の妊娠例と、高校中退について、かなり重大な、関連性がありそうである。更に詳しく調査・分析して行く予定である。

（2）本人の職業

19歳以下の症例に関する調査結果であるが、無職が148例（27.5%）、生徒・学生が190例（35.3%）であった。従来の日産婦の調査結果と逆の結果であった。

4. 相手に関する調査結果

（1）相手の男性の年齢

19歳以下の妊娠例に関する調査では、相手の男性の年齢は、230例（43.4%）が19歳以下の少年であった。

20-24歳が217例（40.9%）、25-29歳が59例（11.1%）、30歳以上は24例（4.5%）であった。

（2）相手の学歴

19歳以下の妊娠例の相手の男性の教育程度は、中学卒が103例（19.2%）、高校卒は191例（35.6%）、中学生が0例、高校生は54例（10.1%）と、在学生は比較的少なかった。これは、従来の日産婦の調査結果とほぼ同様であった。ところが、高校中退が99例（18.6%）と予想外に高頻度であった。21歳のコントロール群の高校中退者は34例（12.1%）であった。

（3）相手の職業

19歳以下の妊娠例の相手の職業は、社会人が401例（76.5%）を占めていた。学生・生徒は102例（19.5%）、無職は21例（4.0%）であった。

（4）相手との関係

19歳以下の症例についての調査では、前回の調査結果と同様に、友人・恋人が351例（56.4%）と最も多かった。次に夫107例（19.9%）、婚約者56例（10.4%）であった。

21歳では、夫90例（31.9%）と多かった。それ以外は、だいたい同じ様な結果

であった。

(5) 親は交際を認めているか

相手の人との交際を、親が認めているのは422例(79.6%)、認めていない者は108例(20.4%)であった。21歳の妊娠例、コントロール群も同じ様な結果であった。

5. 月経に関する調査結果

(1) 初経年齢

初経年齢は9歳から16歳に分布していた。12歳で初経を迎えた者が最も多く198例(37.4%)であった。初経発来時の平均年齢は12.80歳であった。

19歳以下の症例も、21歳の症例も、ほぼ同様の結果であった。

6. 初めての性交

(1) 初交年齢

19歳以下の妊娠例541例について調査検討した。記載のなかった15例を除く526例について集計した。それによると、16歳が最も多く144例(27.4%)であった。次が15歳128例(24.3%)、そして17歳103例(19.6%)の順であ

った。それらの平均は、16.40歳であった。従来の調査の結果に比べると、初回性交年齢の低年齢化が進んでいた。16歳までに66.9%、17歳までに86.5%が、性交を経験していた。

初交年齢の平均は、7年前の日産婦の調査結果よりも0.3年若くなっていた。

21歳群では、初回性交は17歳、16歳、18歳、19歳の順に高頻度であった。

(2) 初交の場所

初回性交の場所は、従来の調査同様、相手の男性の家が318例(60.2%)で最も多く、次いで、ホテル・モーテル119例(22.5%)、自宅62例(11.7%)の順であった。調査結果の順番は、前回と同じであるが、ホテル・モーテルの割合が、若干増加していた。

21歳群を19歳以下群と比較すると、相手の男性の家が少々少なくなっていて、その代わりにホテル・モーテル利用がやや多くなっていた。

(3) 初交の時期

初回性交の行われた時期を月別にみても、8月が73例(15.0%)で最も多かった。以下、7月55例(11.3%)、10月51例(10.5%)、12月47例(9.6%)の順であった。夏休みの頃が多い傾向にあることは従来と同じであった。しかし、調

査を重ねる度毎に、各月間の差が小さくなっていた。

(4) 初交に対する態度

初めての性交に対する態度は、「何とはなしに」が最も多く220例(41.7%)、次に「好奇心」で112例(21.2%)、そして「わからない」106例(20.1%)、「自分から希望」62例(11.7%)の順であった。

「無理やりに性交渉を持たされた」との答えは18例(3.4%)であった。

(5) 交際を始めてから初交に至るまでの期間

交際を始めてから、初回性交に至るまでの期間をみると、交際開始後1週間以内が101例(19.3%)、1週間以上1ヶ月以内が147例(28.1%)、1-4ヶ月が148例(28.2%)、5-8ヶ月が62例(11.8%)であった。

交際を始めてから75.6%の者が、4ヶ月以内に性交渉を持つに至っていた。調査する度毎に、初回性交に至るまでの期間が短くなってきていた。

ただ、21歳妊娠群の場合は、初回性交に至る迄の期間を、1-4ヶ月と答えた者が最も多く38.0%であった。

(6) 性的な快感の有無

性交渉に際して、オーガズムを感じているか否かについても調査している。何らかの快感を経験した者は、214例(40.7%)であった。しかし、264例(50.2%)の者は、「わからない」、と答えていた。

7年前の調査では、「快感あり」と答えた者は25.2%であった。19歳以下の若い人でも、性的快感を体得している者が、明らかに増えていると思われる。また、性に対しておおらかになってきている今日、自分の体験した快感について、「快感あり」と的確に表現できるようになったとも言えよう。

21歳群は、19歳以下群より「性的快感あり」が多く、58.8%であった。

(7) 結婚前の性交についての意識

結婚前の性交渉について、「愛していれば良い」が最も多く、368例(70.1%)であった。「愛がなくとも、お互いに同意していれば良い」とする者が74例(14.1%)、「結婚が前提」が22例(4.2%)であった。

「愛がなくともお互いの同意があれば良い」とする者が多くなってきている。その反面、「結婚が前提」という答えが減少していた。

21歳群は、「愛がなくとも、同意があれば良い」とする者が15.8%と、19歳以下群とほとんど同頻度であった。

(8) 性交経験

妊娠を疑い、産婦人科医院を受診し、妊娠と判定された女子の、性交経験について年齢別に集計した。今回の調査では、性交経験のあった男性の人数をそのまま記入してもらう調査形式にした。

今までに性交渉を持った男性が1人だけの者は、128例(25.2%)であった。7年前の日産婦の調査結果では、「相手の男性が1人だけ」という答えは、41.4%であった。

「相手の男性が複数」という妊娠例が増加している。相手2人が72例(14.2%)、3人が73例(14.4%)、4人が53例(10.4%)、5人が63例(12.4%)であった。2-5人の合計で261例(51.4%)になっていた。

相手の男性の人数が「50名以上」と答えた者が2名あった。各々、約70名(18歳)、約80名(16歳)と回答していた。

「性交渉の相手が複数」の割合が増加している。また性交渉の人数も増加しつつあるように思える。

7. 避妊について

(1) 今回の妊娠で避妊をしたか

性交渉の際に、避妊を行っていたかどうかを調査した。

「いつもしていた」が64例(11.9%)、

「ときどきしていた」が261例(48.5%)、「避妊なし」が213例(39.6%)であった。

避妊実行の割合は、調査を重ねるに従い、次第に高くなってきている。しかし、妊娠してしまっていることを考えれば、避妊をしていても、確実性について難点のある方法を用いていたのかも知れない。

19歳以下群と、21歳群を対比してみたが、余り大きな違いを認めなかった。

(2) その時の主な避妊法

「避妊をいつもしていた」、「ときどきしていた」と答えた325例に対して、その避妊の方法について質問した。避妊経験者の274例(84.3%)が、コンドームを使用して避妊を行っていた。

「膣外射精で避妊をしている」と答えた者が36例(11.1%)もあった。オギノ式は4例(1.2%)であった。

避妊フィルム(商品名:マイルーラ)は8例(2.5%)であった。

「膣外射精」は、避妊効果に関しては問題が多いと言われている。「膣外射精」を使って避妊をしていると回答した者が10代妊娠例の避妊実行者のうちの11.1%もいたことは、そのような意味から問題である。

一方、21歳妊娠群でも「膣外射精」との回答は20.4%であった。

両群ともAVの影響が出ているとも推測される。

(3) 性教育を受けたことがあるか

初潮（初経）教育以外に、性教育を受けたことがあるかどうかを調査した。

性教育を受けたことがある者は、366例（68.5%）、受けたことがない者は、168例（31.5%）であった。少しずつではあるが、受けたことがある者が増えつつある。

21歳妊娠群についても、同様の傾向であった。

(4) 主にどこで性教育、性情報を受けたか

性教育を受けた場所は、学校が319例（87.6%）と、前回同様であった。家庭において性教育を受けたと答えた者は14例（3.8%）にしか過ぎなかった。

21歳群の検討でも、同様の傾向を認めた。

(5) 性教育に対する関心

性教育を受けてこなかった168例について、「性教育をどのように考えているのか」について問いかけた。

「性教育を受けたかった」が65例（40.9%）、「どうでもよい」が41例（25.8%）、「わからない」が49例（30.8%）であった。7年前、日産婦の調査の際、この「どうでもよい」の回答が48.6%であった。今回の調査では、この「どうでもよ

い」という投げやりの、消極的回答が25.8%と減少した。エイズの蔓延に伴う性教育の重要性が叫ばれているが、そのような社会的風潮に影響されているともいえる。

21歳妊娠群では、「どうでもよい」は18.1%、「受けたかった」が45.7%であった。

8. 今回の妊娠について

(1) 相手の人と交際を始めてから、初交までの期間

今回の妊娠の相手と、交際を始めてから、初回性交までの期間を問うと、「1週間以内」が113例（22.0%）、「1週間以上1ヶ月以内」が152例（29.6%）、「1-4ヶ月」が149例（29.0%）、「5-8ヶ月」が43例（8.4%）、「9-12ヶ月」が19例（3.7%）、「1年以上」が38例（7.4%）であった。

交際を始めてから4ヶ月以内に80.6%が、性交渉を始めていた。

(2) 妊娠までの性交回数

性交渉を始めてから、妊娠するまでの性交回数は、10回以上の者が225例（42.4%）であった。6-9回が29例（5.5%）、2-5回が、47例（8.9%）、たった1回の性交渉で妊娠した者が、12例

(2. 3%)であった。

ただ、「忘れた」との回答が、218例(41. 1%)と予想外に多かった。数え切れないくらい、性交回数が多いのか、それとも回答したくないのかについては明らかでない。

従来の日産婦の調査の際には、同様の設問に対して、93. 2%の者が、性交渉の回数の概数を回答している。

今回の調査で、なぜ「忘れた」の回答が多かったのであろうか。この件に関しては、これからも検討する余地があろう。いずれにせよ、今後の調査症例については、この辺りをもう少し突っ込んで調査できるよう、工夫したい。

(3) 妊娠直前の1ヶ月間の性交回数

今回の調査では、妊娠直前の1ヶ月間についての性交回数を問いかけている。

それによると、「2-5回」が最も多く、167例(32. 5%)、次が「6-9回」で、69例(13. 4%)であった。そして「10回以上」は、62例(12. 1%)、「1回限り」が、22例(4. 3%)であった。

やはり、この質問に対しても「忘れた」と回答している者が194例(37. 7%)もあった。

今後、この設問に対する的確な回答を引き出すためには、更なる工夫の必要性を痛感している。

(4) 同棲したことがあるか

19歳以下の症例では、「同棲あり」が152例(28. 3%)、21歳群では、「同棲あり」が35. 9%であった。前回の日産婦の調査結果と同様、19歳以下の症例の368例(約70%)には、同棲の経験はなかった。

(5) 月経が遅れた時の気持ち

「月経が遅れた時にどう思ったか」の結果をみると、性体験のある女性では、一般的には、「妊娠したのではないだろうか?」と心配すると思われる。しかし、そのような気持ちを抱いたのは、19歳以下では312例(57. 9%)であった。「そのうちあるだろう」と思っていた者が200例(37. 1%)、「気にしなかった」者が27例(5. 0%)であった。

「そのうちあるだろう」と「気にしなかった」と答えていた者は、性交渉と妊娠との因果関係を理解できていなかったのだろうか。性交渉をしても、妊娠するとは思っていなかったのではあろうか。

(6) 市販の妊娠検査薬を使用したか

今回の調査で、新しく加えた設問である。妊娠検査薬の使用割合は、予想以上の結果であった。

「使った」が412例(77.8%)、
「使わない」が110例(20.3%)であ
った。「郵便判定」サービスを利用した者は、
まだ確認されていない。

(7) 妊娠を知った時の気持

「妊娠を知った時(妊娠と言われた時)、
どう思いましたか」の結果である。「ショッ
ク」を感じた者は287例(55.0%)、
「うれしかった」が201例(38.5%)、
「何とも思わず」が31例(5.9%)であ
った。

「ショック」であったとの回答は、日産婦
調査の第1回目以来、次第に減少していたが、
今回は若干増加した。すなわち、第1回調査
以来、60.4%→58.6%→51.9%
と減少していた。ところが、今回は、55.
0%と若干増加していた。

逆に、「うれしかった」と答えた者が、第
1回調査以来、次第に増えている。すなわち
27.0%、→31.1%→36.2%と増
え、今回は38.5%にまで上昇していた。

(8) 親は妊娠を知っているか

「親は妊娠を知っているか」について調査
すると、「自分から親に知らせた」が263
例(48.6)%、「親は妊娠を知らない」
者は246例(45.5%)であった。「親
には知らせていないが、親は知っている」と
いう者は27例(5.0%)であった。

(9) 現在のあなたの妊娠に対する気持ち

「複雑」と答えた者が175例(33.1
%)と、最も多かった。その他の項目を多い
順に並べると、「不安・心配」が、153例
(28.9%)、「うれしい」が、106例
(20.0%)、「悲しい」が、78例(1
4.7%)の順であった。

(10) 妊娠について最初に相談した人

「妊娠している」と言われた時に、最初に
相談した人は誰か、と尋ねたところ従来の調
査結果と全く同様に、「相手の人」が最も多
く340例(63.2%)であった。次は友
達で127例(23.6%)であった。以下、
母親29例(5.4%)、女姉妹17例(3.
2%)、学校の先生3例(0.6%)、誰に
も相談せず7例(1.3%)であった。この
項目の調査結果は、従来の報告と、ほぼ同じ
結果であった。

(11) 前にも妊娠したことがあるか

「前にも妊娠したことがありますか」の問
いに111人(20.6%)の者が、「前にも
妊娠したことがある」と答えていた。

この項目に対する回答は、19歳以下群と、
21歳群との間に、若干の差異を認めた。

19歳以下群は、妊娠経験のある者は、1
1例(20.6%)、それに対して、21歳

群では、既往妊娠歴のある者が35.8%と高かった。

(12) 今まで何回妊娠したことがあるか

19歳以下の妊娠例541例のうち、過去に妊娠の経験のあった者は111例であった。過去に1回の妊娠経験のある者は、90例(81.1%)、2回妊娠例18例(16.2%)、3回妊娠3例(2.7%)であった。

10. 妊娠継続例の調査

(1) 今回の妊娠は希望した妊娠か

平成8年2月9日迄に回収できた839例のうち、分娩を確認できた症例が221例あった。それらの内訳は、19歳以下の分娩例126例、及び21歳の分娩例95例であった。

ここでは、19歳以下の分娩(済)の症例126例についての情報を中心に分析したい。

126例中、希望した妊娠は48例(38.1%)、希望していない妊娠が61例(48.4%)、回答なしが17例(13.5%)であった。

(2) 子供を産む理由、産みたい理由

子供を産む理由で、最も多かったのは、「子供が欲しい」95例(75.4%)、

「中絶不能」8例(6.3%)、「何となく」7例(5.6%)、「回答なし」14例(11.1%)であった。

(3) 何でも相談できる人がいるか

「何でも相談できる人がいる」と答えた者は106例(84.1%)、「相談できる人がいない」が8例(6.4%)、「回答なし」が12例(9.5%)であった。

(4) 誰に相談するか

妊娠継続例では、相談の相手は夫が最も多く39例(34.2%)であった。他に、相手の人32例(28.1%)、実母20例(17.5%)、女姉妹4例(3.5%)、友人9例(7.9%)、教師1例(0.9%)、父親1例(0.9%)、無回答7例(6.1%)であった。

(5) 妊娠を相手の人に知らせた時、相手の反応はどうだったか

「喜んだ」が73例(57.9%)、「驚いた」が23例(18.3%)、「何も言わず」が10例(7.9%)、「その他」が3例(2.4%)、「回答なし」が17例(13.5%)であった。

(6) 妊娠を親に知らせた時、親の反応はどうだったか

「驚いた」が42例(33.3%)、「喜んだ」が29例(23.0%)であった。「何も言わず」が15例(11.9%)、「怒った」が24例(19.0%)、「無回答」が13例(10.3%)であった。

(7) 生まれた子供を誰が育てるか

生まれた子供の養育担当者は、「彼と二人で」が111例(88.1%)、「自分と実母で」が3例(2.4%)であった。その他、「自分一人で」1例(0.8%)、「彼の家族」1例(0.8%)、「施設委託」1例(0.8%)、「わからない」4例(3.2%)、「無回答」5例(4.0%)であった。

(8) 過去1年間に、何かストレスになるような出来事があったか

「出来事あり」が12例(9.5%)、「出来事はなし」96例(76.2%)、「無回答」18例(14.3%)であった。

1.1. 性感染症について

今回は、性感染症についても調査した。

19歳以下の妊娠例541例中、クラミジアの検査を行った404例に関する集計では、クラミジア感染者は18例(4.5%)であった。淋菌との合併感染例が1例であった。

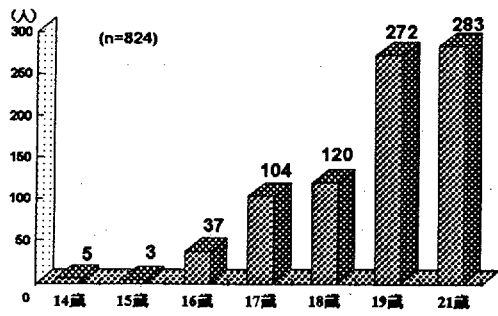
クラミジア抗原検査陽性者を「陽性」と判定したが、この値は予想よりも、低い値であった。

21歳群のクラミジア感染者も11例6.0%であった。

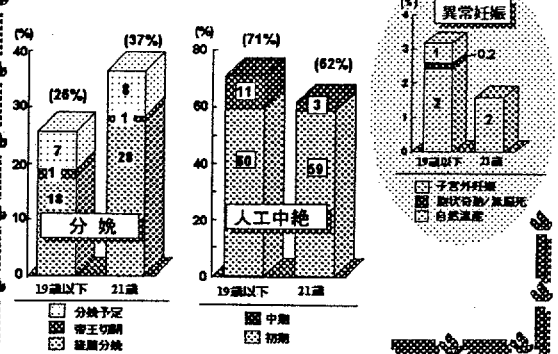
最近の日本における、10代妊娠とクラミジア感染に関しては、感染の頻度が、10-30%とする報告が多い。今回の調査結果は、予想していたよりも低値で、意外な結果であった。

これは、今後とも、例数を重ねて、検討を続けて行きたい。

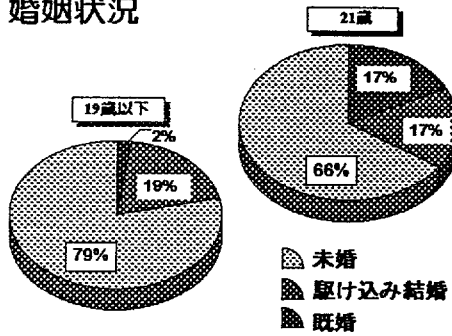
調査対象者の年齢分布



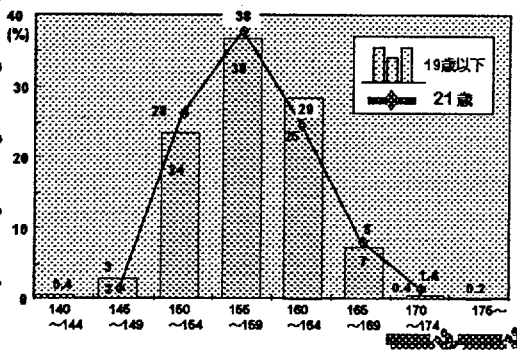
妊娠の結末 ~望まない妊娠~



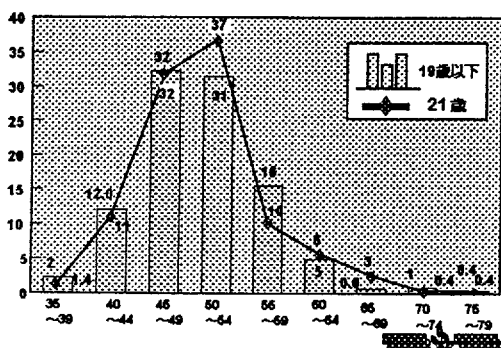
婚姻状況



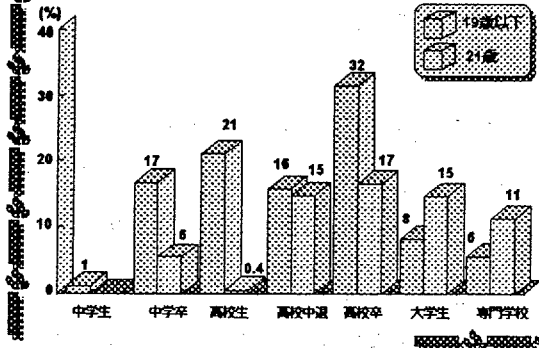
身長分布

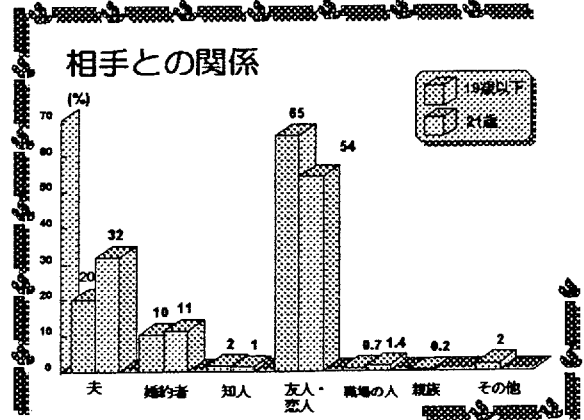
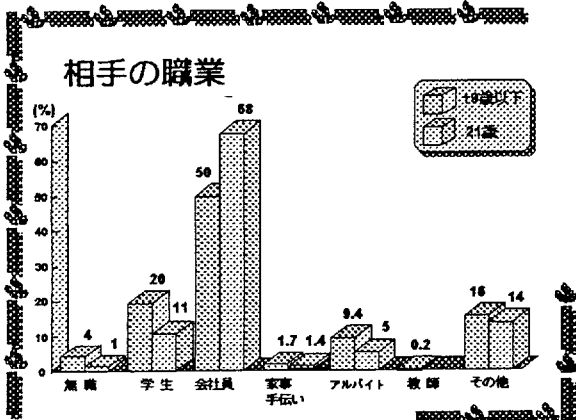
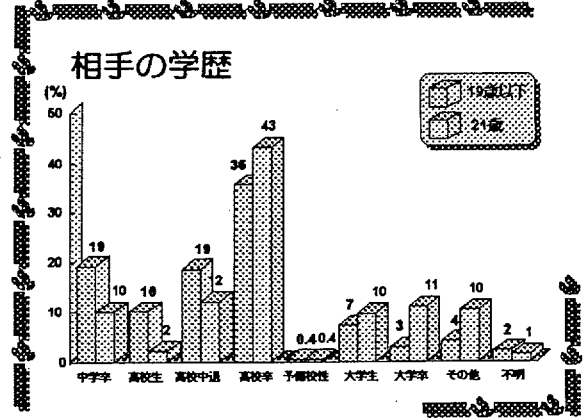
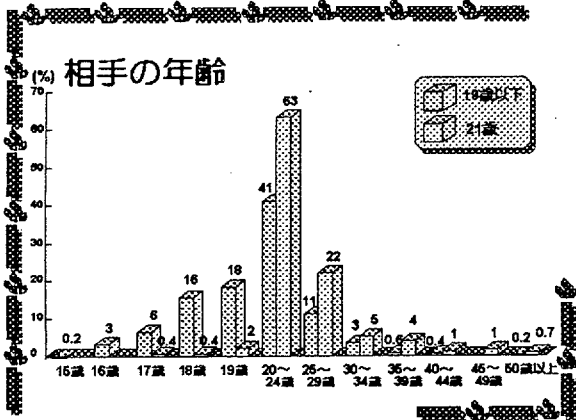
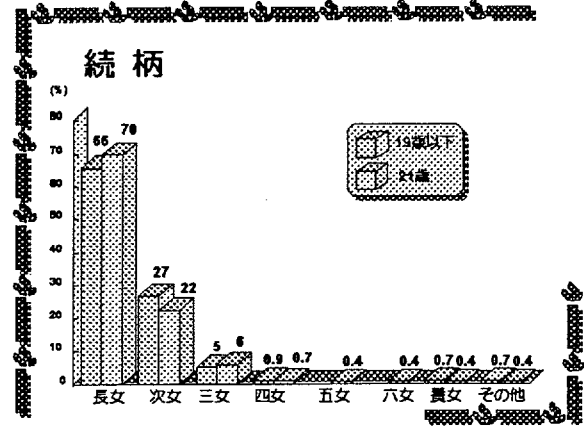
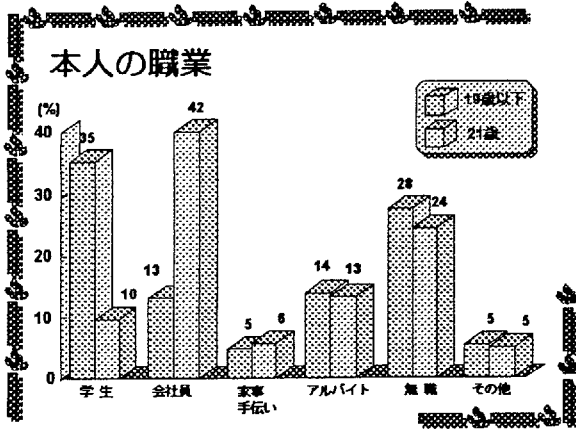


体重分布

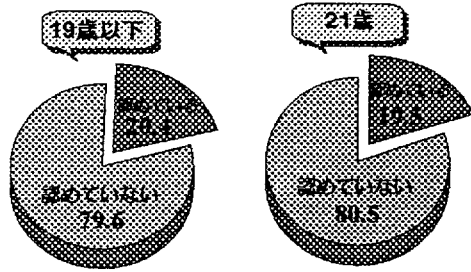


本人の学歴

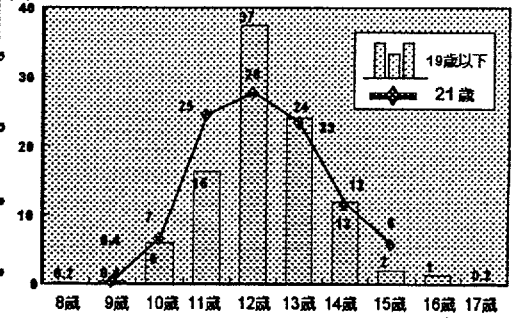




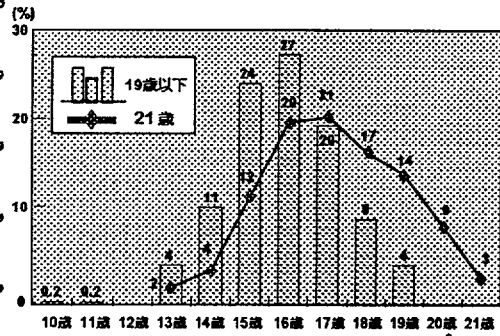
親は認めていますか



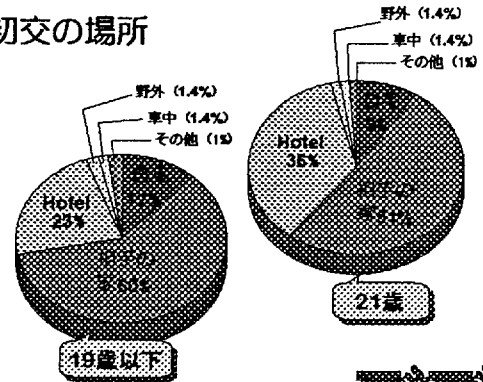
初経年齢



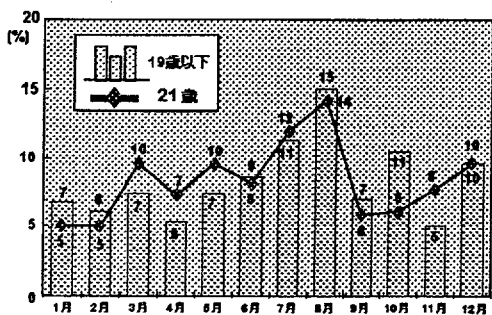
初交年齢



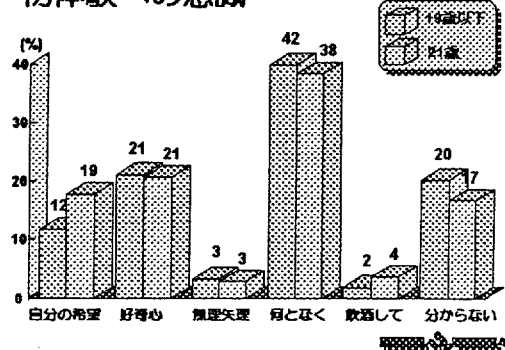
初交の場所



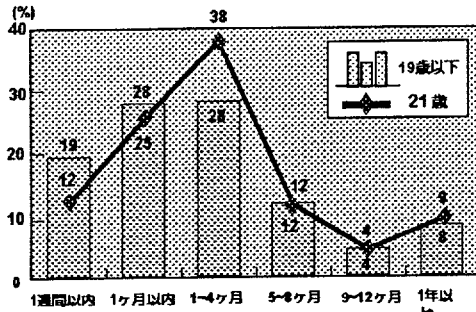
初体験の時期



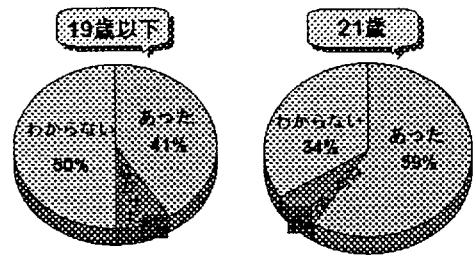
初体験への意識



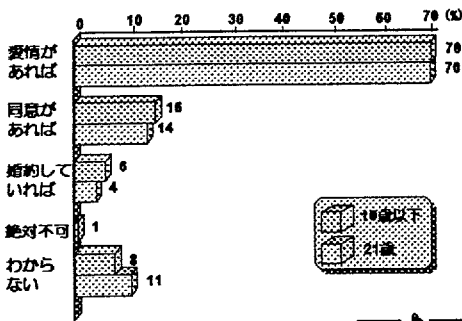
交際から初体験までの期間



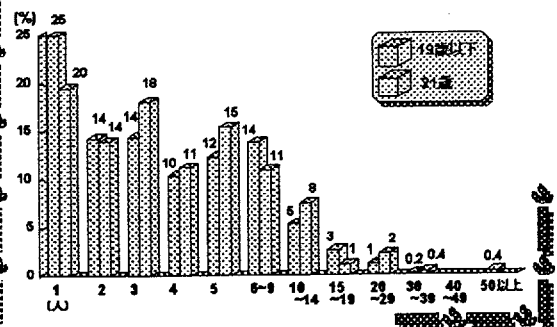
今までに性的快感があったか



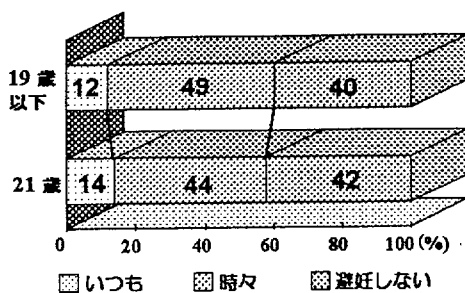
婚前性交についてどう思うか



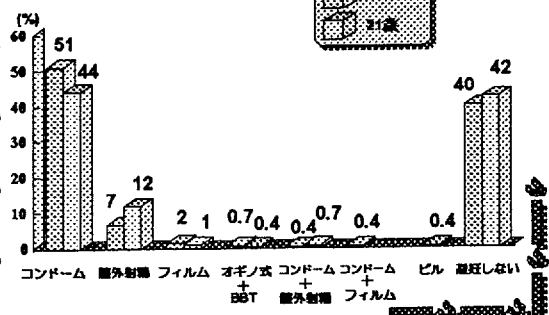
今までに何人の男性と性交経験があるか



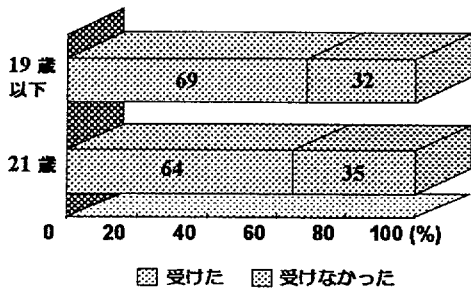
今回の妊娠に関して避妊したか



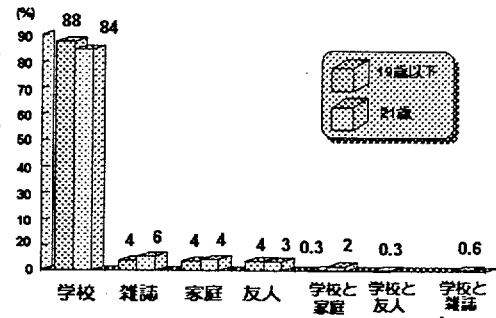
主な避妊法



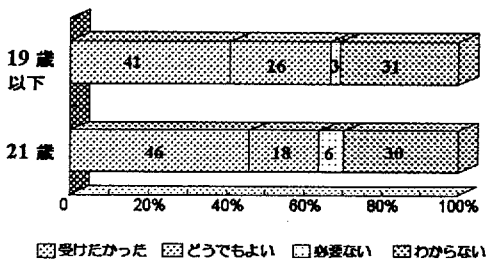
性教育を受けましたか



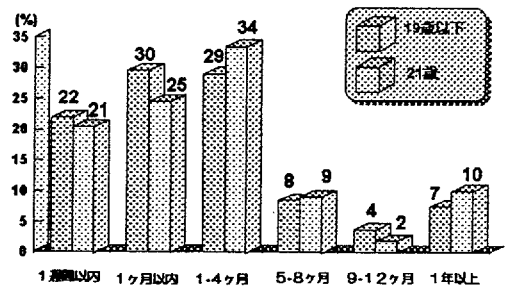
どこで性教育・性情報を得ましたか



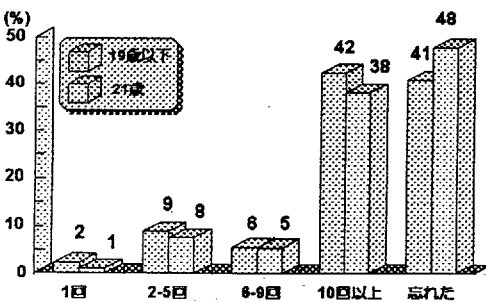
性教育を受けたかった?



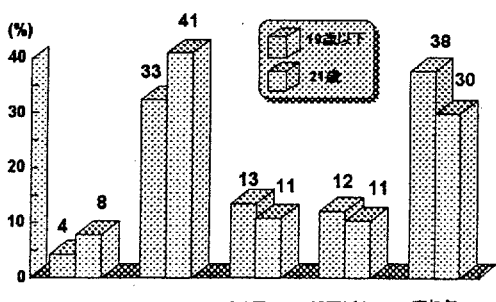
交際をしてから、その人と初回性交までの期間



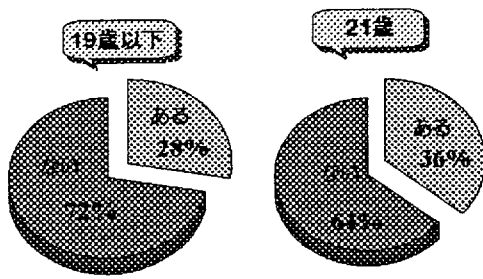
妊娠までの性交回数



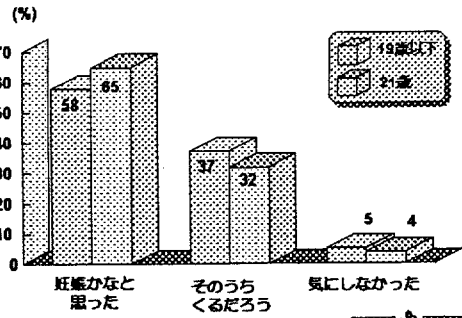
妊娠直前1ヶ月間の性交回数



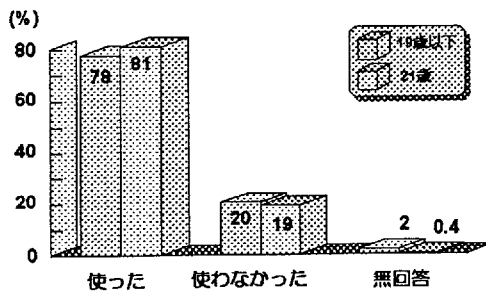
同棲経験



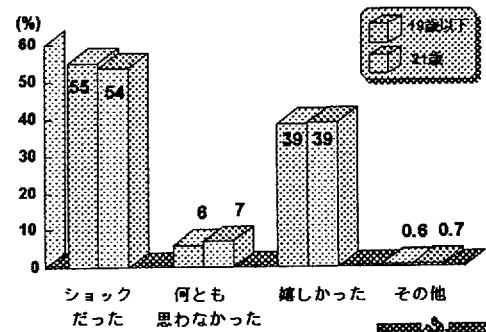
月経が遅れたときの気持ち



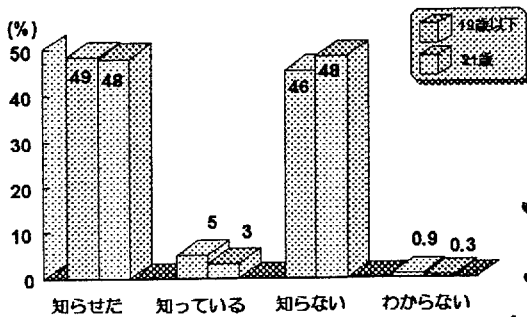
市販の妊娠検査薬を使いましたか



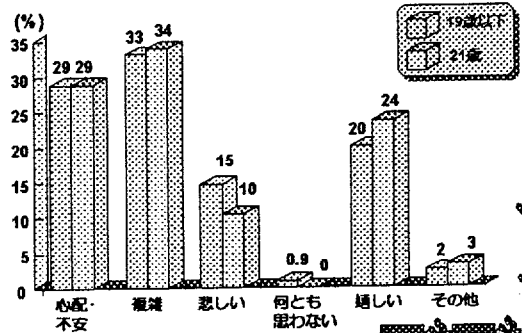
妊娠を知ったとき、どう思ったか

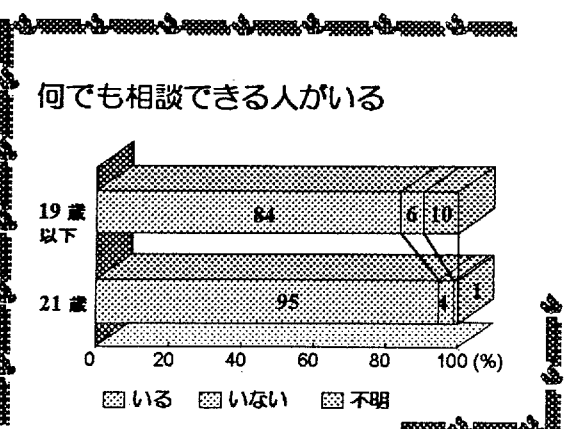
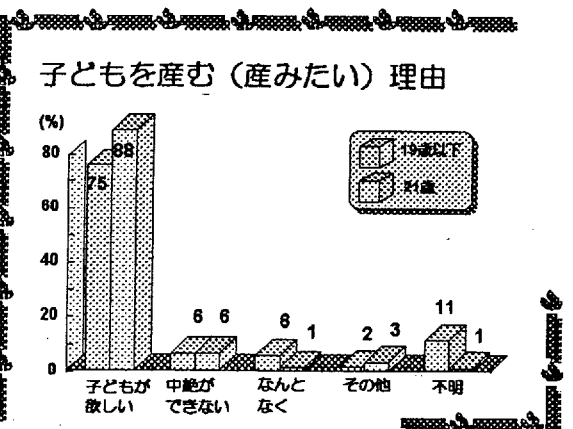
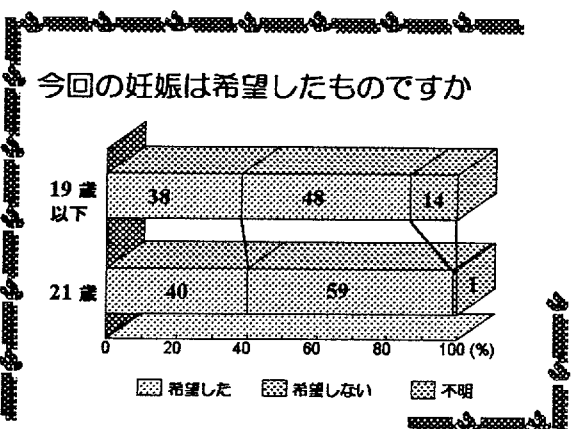
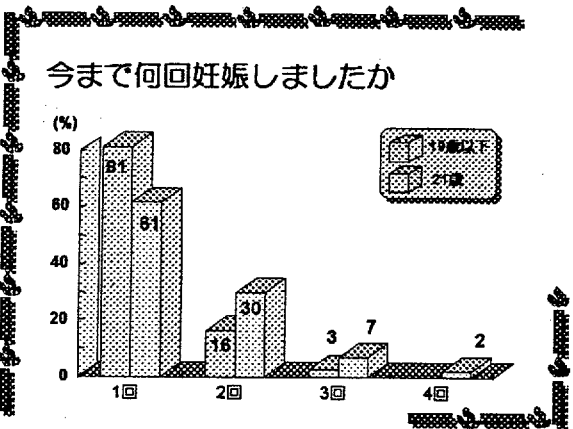
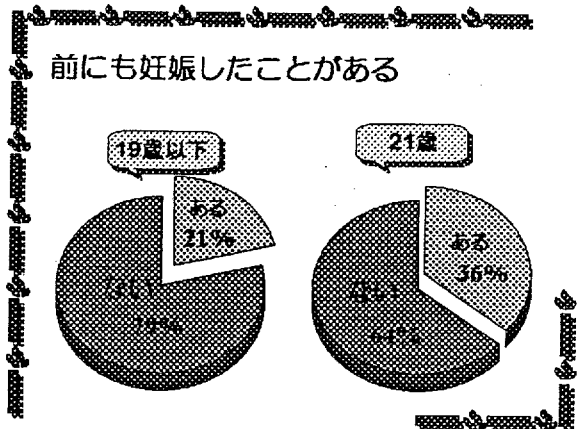
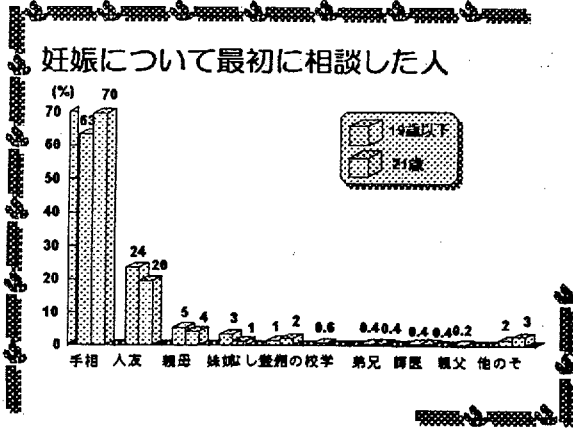


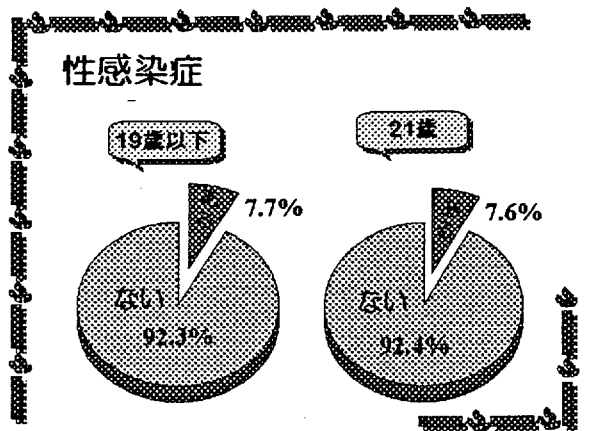
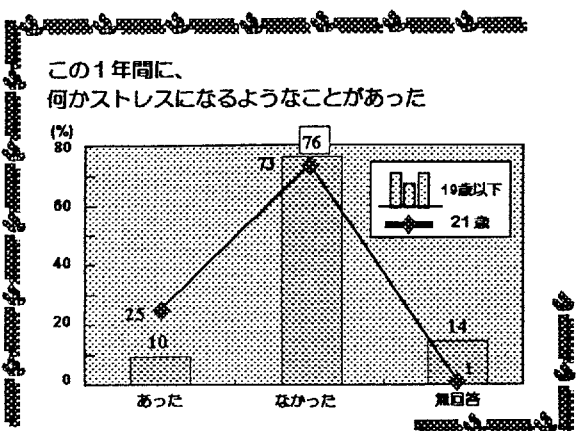
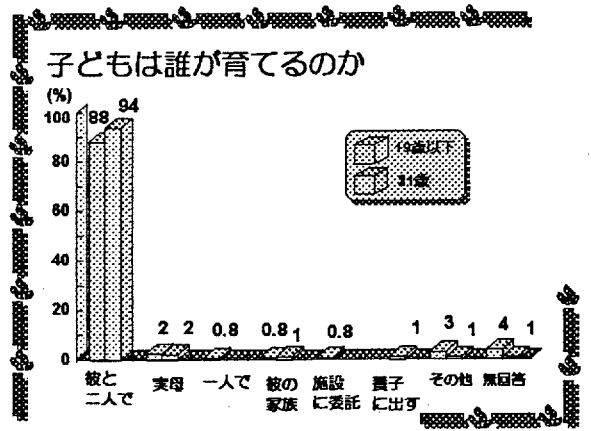
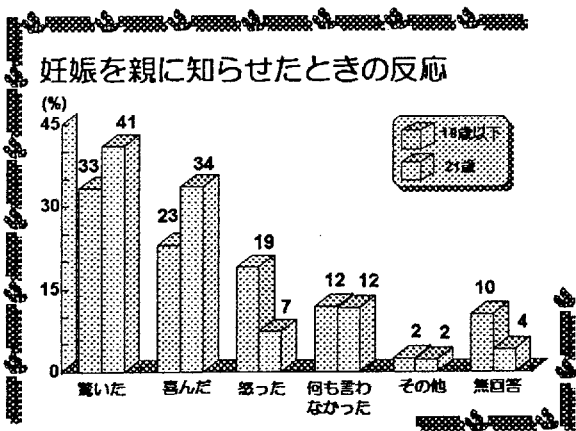
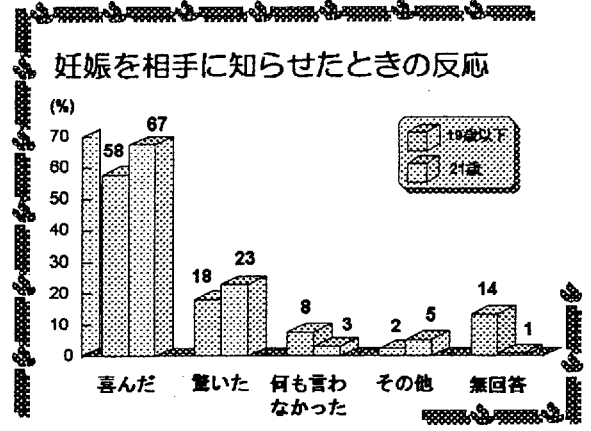
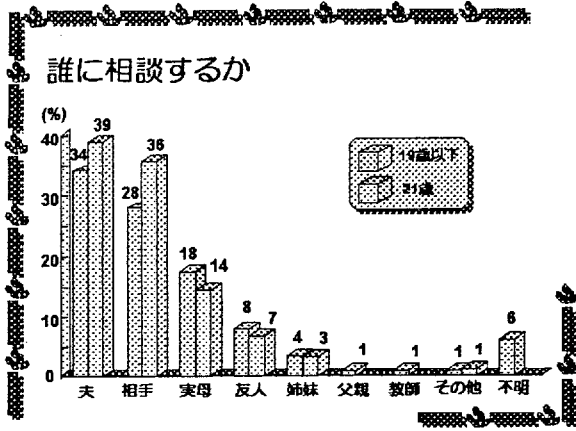
親は妊娠を知っているか



現在の妊娠に対する気持ち









検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

日本産科婦人科学会では、1978年、1983年、1988年の3回にわたって、青少年の性意識や性行動の実態をより正確に把握しようと、19歳以下で妊娠した女子を対象とした、社会医学的な調査を実施してきた。これらの結果を通して、性交経験の若年化が進行している事実をつかんできたが、第3回目の調査から、すでに7年が経過していることもあり、最新のデータを収集するために、本研究班独自で、同様の調査を行うことになった。

今回は、全国的な規模ではなく、研究班への協力を要請した全国8地域(北海道、青森、宮城、群馬、東京、島根、福岡、鹿児島)、10を越える施設での調査となっている。